



○ 大地

かつて水泳競技で活躍した鈴木大地という選手がいました。引退後初代スポーツ庁長官を勤められ、今は大学などの分野で活躍されているように聞いています。それ以来男の子の名前に大地とつけることが増えたように思います。今回はその“大地さん”の話題ではありません。まさにそのものの大地です。

このたよりを読んでいただいている皆さんはどのくらい“地面”を意識されているでしょうか？今回この話題にしようと思いついたのは、前号で紹介したハランの株分け作業がもとです。本校の畑をスコップで掘り、株分けをして北九州校の鉢に植え替えたというものです。北九州校には畑がないので鉢とプランターを使用していますが、土はリフレッシュさせなければなりません。そのことから私は畑の土をリュックに背負って運搬しようと思いつきました。（車ではなく電車なので少しづつです。）今回初めて試みました。スコップ二杯分だけだったのですが、いざ背負ってみるとものすごく重い！掘って袋に入れるときはそれほど感じなかった重さでしたが、想像以上でした。

「防災の日」が9月1日で、防災週間は先日終わりました。終わったとはいえ、防災への意識は持ち続けていかなければなりません。最近では線状降水帯の発生もたびたびです。土砂災害もときどきありますが、その破壊力は想像を絶するものであろうことを今回の経験で改めて感じました。そういえば地球は土と岩の塊です。でも私たちが今生存しているのはこの塊のおかげです。

大地の影響は被害ばかりではありません。肥沃な土壌は多くの作物を育ててくれ、私たちの食事を豊かにしてくれます。食にかかわる学校に勤めている身としては、こういった大地の恩恵のことも忘れてはいけません。本校の学生数名が「日本酒プロジェクト」に参加しています。米作りから始めてお酒に出来上がっていくまでを経験するというものです。これまで月に1回ずつ、田植え、草刈などを体験してきました。これから稲刈り、脱穀と進んで酒造りが始まります。これも大地の恵みですね。

若いころ、自転車で北海道を旅していた時、ひたすら広いジャガイモ畑が続いている中の長い一本道を走ったことがあります。走っても走っても終わりが見えないくらいの広大な土地です。今はトラクターなどで作業をしていますが、開墾当時はほぼ手作業であったらうことを想像し、先人の努力と苦勞を実感しました。

最後に“地面”の話題です。地面の種類を取り上げてみると、土、砂、砂利、コンクリート、アスファルト、石畳などが思い浮かべられます。私は中学時代柔道部でした。今ほど科学的なトレーニング（練習）方法が確立されていない時代です。いろいろなことをして（させられて）いました。ある時先輩に指示されて、砂利道を裸足でランニングしながら近くの神社（山の中腹の小さな祠）へ行きました。そして地面の上で練習が始まります。打ち込み※だけならまだしも、投げ技も行います。後輩である私たちは先輩たちに土の上（小石もありましたが）に投げられるわけです。いやだなと思っていましたが不思議なことを感じました。冬の寒い日、硬くなった畳の上よりも痛くないのです。土はほんの少レクッション性があります。野球やラグビーなどのスポーツにおいて地面に倒れこむ場面はよくありますが、受け身ができていけば大げがにはならないようです。

人工芝は柔らかさそうでいて、疲れやすく怪我をしやすいということを聞いたことがあります。大地は偉大だと思います。

※投げずにふところに入るまでの練習

羊蹄山とジャガイモ畑

